

夏秋なすにおける紫色LEDを利用した天敵誘引による防除技術の実証

要約

紫色LEDと温存植物を組み合わせたアザミウマ類の防除技術は、慣行防除と同等の防除効果があり、農薬散布回数も低減された。

○ 展示のねらい

夏秋なすにおいてアザミウマ類の被害が問題となっている。そこで、紫色LEDを1日数時間照射することで土着天敵を畑に誘引し、温存植物を圃場に植栽することで定着させる技術と、農薬天敵も併用することで防除効果が高まり、品質向上が図られる。また、農薬散布に要する作業時間削減の効果も期待できる。



紫色LED照射機

○ 主な成果

紫色LEDと温存植物を組み合わせるにより、土着天敵の定着が確認され、現地慣行防除と遜色のない防除効果があることが示された。(図1)

害虫防除に係る散布回数は、供試区が6回、対照区が11回と供試区が少なく、防除に係る全体の経費は供試区が高くなったが、継続して利用することで、散布回数減少により慣行と同等の経費になることが見込まれる。(表1)。

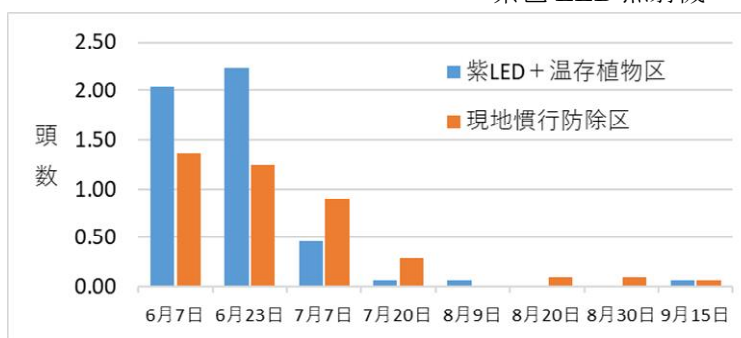


図1 病害虫発生状況調査結果

表1 殺虫に係る防除経費 (1葉あたりアザミウマ類の平均頭数) (単位: 円/10a)

	供試区	対象区
農薬代 (殺虫剤)	21,260 (散布回数6回)	69,250 (散布回数11回)
紫色LED (10台/10a)	66,000	—
温存植物 (30株/10a)	9,810	—
スワルスキーカブリダニ	18,000	—
計	115,070	69,250

○ 今後の方向性

安定した防除効果を得るため、紫色LEDと温存植物をセットで導入することを推進し、農薬散布を少なくした総合的な防除技術を確立していく。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：真岡市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315